



■■■ショートコメント■■■

◆マーベルスタジオ製作の「アメコミもの」は、いい加減ウンザリ。『アイアンマン』も飽きたし、『アベンジャーズ』シリーズもはやどうでもいい。そんな私だったが、『ルーム』(15年)でアカデミー賞主演女優賞を受賞した美女ブリー・ラーソン(『シネマ 37』10頁)がヒロインの「キャプテン・マーベル」役で写っているチラシを見ると、ついこれは見ておかなければ……

◆そう思って映画館へ行ったが、導入部からジュードローが登場していたからビックリ。また、導入部では地球から遠く離れたクリー帝国が舞台だったが、キャプテン・マーベルがあるミッション遂行中に地球に不時着した後は、サミュエル・L. ジャクソン扮する国際平和維持組織 S.H.I.E.L.D (シールド)のエージェントが登場。しかして、キャプテンマーベルの出自は?彼女のパワーはどこから授かったの?そして、誰が敵で、誰が味方???

◆そんなストーリーをちゃんと追いかけていけばそれなりに楽しいのかもしれないが、残念ながら、私はやっぱり途中でうんざり。彼女は「アベンチャーズ誕生の鍵を握る存在」として重要らしいが、私にはもはやどうでも……?

ちなみに、エンドロールが流れ終えた後、次作を予告する、あるシーンが登場するから、『アベンチャーズ』シリーズが好きな人は、次作も是非。もっとも、私はノーサンキューだが……。

2018 (平成30) 年3月26日記